

令和7年度 第1回江別市社会教育委員の会議

日 時：令和7年8月19日（火）14時00分から15時10分まで

会 場：旧町村農場 多目的室A

出席者：社会教育委員	委員長	井上 大樹	教育委員会	教育部部長	佐藤 学
	副委員長	藤田 昌之		生涯学習課長	星野 真
	委員	黒河内葉子		スポーツ課長	松井 正行
	委員	佐藤 貴史		情報図書館長	佐野 之範
	委員	西田浩太郎		郷土資料館館長	堀井 修
	委員	藤田くみ子		生涯学習係長	稲垣 麻美
	委員	松山 和子		文化振興担当主査	朝倉麻沙美
	委員	石川 忠博		社会教育主事	中田 稜子
	委員	木滑 幸江		インターンシップ	只野 由菜

欠席者：社会教育委員	委員	岡山 拓	教育委員会	教育部次長	新山 千穂
				セラミックアートセンター参事	兼平 一志

傍聴者：なし

会 議 録	
1	開会
2	教育部長あいさつ
3	委員長あいさつ
4	議題（1）令和7年度社会教育予算に係る主要事業について
井上委員長	議題の（1）令和7年度社会教育予算に係る主要事業について、説明をお願いします。
稲垣生涯学習係長	令和7年度社会教育予算に係る主要事業についてご説明いたします。時間の関係上、各課の主要事業を抜粋しました、資料1「令和7年度絵で見る社会教育事業（主要事業）」に基づいて、各所管課からご説明いたします。その他の事業につきましては、4ページから10ページの資料2「社会教育予算主要事業一覧」に記載しておりますので、ご参考にしていただければと思います。それでは、それぞれ所管課からご説明させていただきます。
星野生涯学習課長	<p>それでは、生涯学習課の主な事業についてご説明申し上げます。資料の1ページをご覧ください。</p> <p>1段目の「旧町村農場管理運営事業」は、指定管理業務に要する経費のほか、貸室で使用する備品など、施設整備に要する経費を計上しております。</p> <p>旧町村農場は、令和6年6月6日のリニューアルオープンから、令和7年3月末までに20,952名の方に足を運んでいただきました。令和7年度は、指定管理業務に要する経費を計上しております。指定管理者は、旧町村農場の来館者数を増</p>

	<p>加させるため、自主事業等に取り組んでおります。本会議終了後の勉強会において、自主事業等に関する取組をご紹介します予定です。</p> <p>2段目の「子どもの文化活動育成事業（土曜広場）」は、地域ボランティアが実施する、小中学生向けの茶道や日本舞踊、将棋等の伝統文化のほか、一輪車や手品などの教室「土曜広場」の開催に係る経費です。令和7年度から、子どもたちの土曜日の過ごし方の多様化などによる参加児童数の減少や小学校の負担軽減のため、実施会場を従前の小学校から住区会館や旧町村農場等の地域の施設へ変更し、校区をこえて選択可能な講座としております。</p> <p>3段目の「科学体験教室開催事業」は、小学生を対象に、音や光、身近な化学物質などの科学分野の実験に加え、新規にパソコンソフトを用いて模型自動車を自在に走らせるなどのプログラミング教室を実施します。</p> <p>4段目の「江別の魅力「食」と「自然」を満喫できる体験型学習事業」は、「都市と農村の交流センターえみくる」を会場とし、江別産食材をふんだんに使用し江別産れんがを使用した窯でピザづくり等を行う食育、木の実を分類させるミニゲームやオリジナルカードゲームなどにより、子どもたちが楽しみながら江別の魅力である『食』と『自然』を学べる体験型学習の機会を提供します。</p> <p>以上で、生涯学習課所管事業に関する説明を終わります。</p>
松井スポーツ課長	<p>続いて、スポーツ課の主な事業についてご説明申し上げます。2ページをお開きください。</p> <p>1段目の「大麻体育館改修整備事業」は、安全かつ快適に市民がスポーツに親しむ環境を持続的に提供するため、大麻体育館の第2・第3体育室の床改修工事を実施します。</p> <p>2段目の「トップアスリート交流推進事業」は、トップアスリートとの交流により、市民のスポーツ技術の向上とスポーツ活動の活性化を図る事業であり、日本代表・プロスポーツ団体への合宿支援や、市民とプロスポーツ選手等による交流事業を実施する予定であります。</p> <p>以上で、スポーツ課所管についての説明を終わります。</p>
佐野情報図書館長	<p>続きまして、情報図書館の主要事業について、ご説明いたします。資料は2ページをご覧ください。</p> <p>3段目の「子どものための読書環境整備事業」ですが、学校図書館の環境整備や教育活動の支援のために、学校図書館を巡回する司書4名、これを支援する司書1名を配置する経費と、支援に伴う消耗品費、図書購入費を計上しております。</p> <p>4段目の「本でつながるまちづくり事業」は、令和7年度からの新規事業で、閲覧用の雑誌カバー等に掲載する広告を募集することで新たな財源を確保し、図書館資料の充実を図るとともに、各企業の社会貢献活動等のミニ展示の実施などを通じて、利用者に協力企業等の取組を知ってもらう事業であります。</p> <p>以上で、情報図書館関係の説明を終わります。</p>

堀井郷土資料館長	<p>続きまして、郷土資料館及びセラミックアートセンターの主要事業につきまして、ご説明いたします。資料は3ページをご覧ください。郷土資料館事業から、ご説明します。</p> <p>1段目の、ふるさと江別塾「江別を学ぶ」開催事業は、市民の郷土史に対する理解を深めてもらうために、歴史講座等を開催するものです。</p> <p>引き続き、小学生を対象に学芸員の仕事などを体験してもらう「子ども学芸員カレッジ」や、市内の史跡を見学する「再発見・江別探訪」などの開催を通じて、市民が江別の歴史を学び、文化財や史跡に親しむ機会を提供してまいります。</p> <p>2段目の「郷土資料館設備更新事業」は、経年劣化により雨漏りが発生する、展示室と事務室を結ぶ渡り廊下の屋上防水改修工事と正面入口外側の自動ドアの開閉不良による部品交換工事を行うものであります。</p> <p>次にセラミックアートセンター事業について、ご説明します。</p> <p>3段目の「セラミックアートセンター企画展開催事業」は、郷土を代表する版画家の手島圭三郎さんの絵本原画展や、何層もの色粘土を重ねて独自のグラデーション技法を駆使して、国内外で高い評価を得た、陶芸家の尾形香三夫（おがたかみお）さんの追悼展のほか、市内大学等との連携による「江別市中学校美術部合同展」を開催いたします。</p> <p>4段目の「陶芸文化普及振興事業」は、センターの特徴を生かしながら生涯学習と やきもの文化の普及啓発を図っていこうとするもので、各種陶芸教室、陶芸体験、技法講座等のほか、工房利用の1年間の成果を発表する「工房利用者作品展」を開催します。</p> <p>説明は以上です。</p>
井上委員長	<p>ただ今、社会教育関係事業について説明がありましたが、委員の皆様から質問、意見等はございませんか。</p>
石川委員	<p>セラミックアートセンターの関係で、手島圭三郎先生の展示会ありがとうございました。見て来て思ったのですが、敷地に入って右側にある展示物がずっと覆われたままで、危険だからなのか、壊す予定なのかわからないのですが、そのままになっているのがとても気になっています。昔は芸術的なものだったのでしょいうが、今は逆に景観を壊しています。入り口の花も鉢が割れたままになっています。せっかく中では色々な体験的な活動を行っていて人が来ているのが入ってみてわかったのですが、アートを謳っているからには、通りがかって入ってみたいなどと思ってもらえるようになってほしいので、展示物を壊す予算、新しいものができればいいのですが、この予算の厳しい時代にはできないとしたら、現在、芸術分野の関係でも色々な人たちがいるので、その人たちの作品を展示したりとか、その人たちの力を借りるのはどうかという印象を持ちましたので、ぜひご検討をお願いしたいと思います。</p>

堀井郷土資料館長	<p>現在、危険性があるということで、囲いをして見られないような状況ですが、やはりアートセンターという芸術作品を展示する施設でもありますので、予算はかなりかかるということは聞いていますが検討していきたいと思います。</p>
松山委員	<p>旧町村農場で毎月1回子ども文化ネットワークでおはなし会をしていますが、環境が変わったことで、ホームページを見て遠くからの参加者がいますので、新しくなって良かったと思っています。絵本の読み聞かせですが、外の環境がとても良いため、親子で最後に遊ぶおもちゃを工作で作るとそのまま持って外で遊んでいただくことができるのでとても良い環境だと思っています。</p> <p>セラミックアートセンターの関係では、市内の中学校の美術部の合同展について、各学校で展示している皆さんは、他校の生徒たちとの交流はなかなかないと思います。こういう形で合同展をやると、他にも江別の中で、自分と同じように江別が好きで絵を描いている仲間がいるという存在に気付くというのはとても良いと思いますので、中学校に関わらず、大学や高校の方々の交流もやっていただけるといいと思います。</p> <p>手島さんの原画展について、今年は3点出ましたが、初期の作品と新しい作品に触れることで、はっきりと違いがわかります。そういう展示の仕方もありますので、初期・中期・後期というような展示の仕方もあるといいと思います。</p>
堀井郷土資料館長	<p>中学生だけではなく様々な年代の方たちとの交流は重要だと考えていますので、色々な方にお声掛けする中でそういった企画展を考えていきたいと思います。</p> <p>手島圭三郎さんの件については、原画を多く寄贈いただいていますので、今年だけではなく来年度以降も引き続き継続して展示をしていきたいと思っています。</p>
井上委員長	<p>全体を通してですが、これまではコロナ前のように復活させようというのが中心だったと思いますが、これからまた新しくやっっていこうという流れは非常に良いことだと感じています。</p> <p>子ども向けの社会教育事業というのは、小学生が主な参加者層になりがちですが、中高生の参加動向を教えてくださいませんか。</p>
星野生涯学習課長	<p>中学生ということなんですけれども、生涯学習課でやっている青少年の体験学習は小学4年生から中学3年生として募集しているものがあり、例えば青少年キャンプですと、参加が多いのは小学生で今年は240名くらいの参加がありましたが、210名くらいが小学生で30名くらいが中学生という感じでした。資料1ページの科学体験教室については小学校の低学年の部と高学年の部があるのですが、やはり低学年の方が参加が多いです。だんだん年齢が上がってくるにつれて、想像にはなりますが、部活や塾などがあり参加が難しいのではと考えています。</p>

井上委員長	<p>少年団活動や塾ということを考えると、小学校高学年から中学校にかけて参加は普通は減っていくと思います。一方、部活動については地域移行ですとか、いわゆるサークル活動といわれるようなものは、スポーツ文化を楽しめるという点ではいいのかもしれませんが、一方でそういうところを居場所としていた生徒たちをどこで受け入れるのかということが課題と考えています。移行が進む中で児童館などで中高生の受け入れを札幌市がやっています。夜間の開館など社会教育の中で公共的にできることは限られていると思いますが、単発の事業の中で体験のレパトリリーを増やしていくチャンスだとは思っていますので、計画を進める中でそういったところを考えていければいいかと思っています。</p> <p>その他何かございませんか。</p> <p>なければ次に進ませていただきます。</p>
4 議題（２）令和６年度江別市社会教育総合計画（第１０期）推進状況報告書について	
井上委員長	<p>議題（２）令和６年度江別市社会教育総合計画（第１０期）推進状況報告書について、説明をお願いいたします。</p>
稲垣生涯学習係長	<p>第１０期江別市社会教育総合計画は、令和６年度から令和１０年度までを計画期間として策定したものです。各施策の実施状況や達成状況、効果や課題について、PDCAサイクルの考え方に基づいて、点検・評価を行い、計画に反映させていくとしておりますので、成果指標の令和６年度における結果について、報告いたします。</p> <p>資料中の数値につきましては、回数や人数については担当部署等からの報告により、割合については企画政策部で実施している「まちづくり市民アンケート」や、教育委員会所管の教育研究所で児童・生徒向けに実施しているアンケートにより、算出しております。</p> <p>はじめに、「基本目標Ⅰ地域全体で子どもを守り育てる体制づくり」であります。１「家庭の教育力の向上」では、成果指標１－①「家庭教育の支援に関する事業への参加者数」及び１－②「家庭の教育力向上を支援するサービス等の利用者数」は、令和４年度の現状値に比べて増加しています。これは、コロナ禍からの回復傾向がより顕著となり、各種事業への参加者や子育て支援施設の利用者が増加したことによるものと考えられます。</p> <p>次に、２「地域の教育力の向上」であります。成果指標２－①「学校・家庭・地域の連携がとれていると思う市民割合」は、概ね横ばいであり、子どもを地域ぐるみで育てる環境の整備が求められます。２－②「地域団体等が主催する行事への参加者数」は、現状値に比べて増加しており、コロナ禍と比較すると各種行事の実施数が増えていることによるものと考えられます。</p> <p>次に、３「子どもの豊かな人間性を育む教育の実践」ですが、成果指標３－①「ボランティア活動や体験学習活動に参加する児童生徒の割合」が現状値に比べて減少しております。引き続き体験学習活動の充実を進めてまいります。</p> <p>次に、４「子どもの安全・安心な環境づくり」ですが、成果指標４－①「子育て</p>

井上委員長	<p>て環境が充実していると思う保護者の割合」は、現状値と比べると増加していません。この要因の一つとしては、放課後児童クラブの増設による待機児童の解消など、子育て世代のニーズに応えた支援等が行われているためであると考えられます。</p> <p>今後の推進の方向性ではありますが、子どもたちを健やかに育てていくため、関係団体等と連携を図り、地域全体で安全に安心して子育てできる環境づくりを進め、地域の人材やボランティア団体など連携した様々な体験・交流活動の機会を充実させるとともに、学校・家庭・地域が相互に連携しながら、地域全体で子どもを守り育てる環境づくりに努めます。</p> <p>基本目標1については以上です。</p> <p>ただ今、令和6年度江別市社会教育総合計画推進状況報告の基本目標Iについて説明がありましたが、委員の皆様から質問、意見等がございますか。</p> <p>事業評価の仕方は、社会教育だけの問題ではなく、行政全体の評価のあり方が、必ず数字を出すいわゆる見える化や証拠主義という考え方に基づいたものになっていますので、場合によっては数字には出てこないけれどもこういうところは頑張っているのではないかと、課題があるのではないかと意見をを出していただければと思います。</p>
木滑委員	<p>私がやっている育成会の行事では子どもを募集しますが、家族が連れてきて置いて帰るといよりもお父さんお母さんが最後まで見届けるといことが増えてきまして、一緒にやることもあります。子どもがやっていることに関してご両親が関心を持って見ていることが増えてきました。</p>
井上委員長	<p>大学の見学会でも保護者向けのプログラムに行かず、学部学科の生徒向けのプログラムに最後まで参加する保護者の方が今は多いです。親の想像できる範疇の中で子どものやりたいようにやらせたいと言いつつも、一応付き合うという傾向があります。部活の大会でも年々一緒に行っている親御さんが多いのではと思います。</p>
石川委員	<p>基本目標Iの中で唯一成果指標3-①が割合が下がっていますが、これだけ下がるのは不自然な感じがしますが、何が原因なのでしょう。</p>
稲垣生涯学習係長	<p>この調査は、年度によって対象となる学校が異なっていることもあり、一概に比較するのは難しい部分があります。数字については極端に下がっているとまでは言い切れないものと考えていますので、引き続き目標に向かって取組を進めていきたいと思っています。</p>
石川委員	<p>熱心な学校やそうでない学校によって変わってしまうのは統計の取り方の問題のような気がするので、その辺もご検討いただければと思います。</p>

木滑委員	児童生徒の割合というのは、高校生も入っていますか。
稲垣生涯学習係長	中学生までです。
井上委員長	<p>中学生ですと部活などのスケジュールがあり、よくあるのは学校教育と社会教育のスケジュールがなかなかうまく噛み合わないということがどこの町でもある課題です。そこをどうクリアしていくか、というのは課題の一つとしてあるかもしれません。もう一つ裾野を広げるという点でいきますと、校則の改善という問題に対して、国から生徒の意見を聞きながら、あるいは生徒たちに話し合いの力を付けさせながら解決していくということが推進されています。それに対して札幌市はもっと踏み込んでいるのですが、CS学校運営協議会の新しい制度作りの中に生徒も参加できるという仕組みを作っています。一方で、そういう校則の改善をどこの学校でも取り組まなければいけないというものはある程度共通化してきています。生徒会活動の交流というのを地域も含めていろいろな活動をしようとしている学校が出てきています。そういう活動を教育部署と協力しながら地域の人たちと交流できるような形になれば社会教育事業になると思うので、そういうところにも踏み出していくというのもいいかなと思いつつながらCSに参加しています。</p>
黒河内委員	<p>子育てについての不安・孤立を感じる家庭や、子どもの社会性や自立心、基本的な生活習慣の育成に課題を抱える家庭というところで、家庭問題研究会から「ねくすと」という不登校の子ども達が参加するところの専門相談員として出させていただきます。何年前かに岩見沢で不登校の子どもたちが通う場所を見せていただいて、今年は石狩の施設を見せていただきました。「ねくすと」は、今回新しくしていただいて、お金をかなりかけていただいたと思っていますが、すごくオープンな場所が多く、子どもたちは個室とかの入りやすい場所という点で、他の地域から見ると、少し来づらい部分があります。元気のある子はずっと通って来ていますが、ここの場所は数字で表すものではないと思いますので、こういうことにもう少し力を入れてほしいなと思っています。この10年、20年の間でどんどん変わってきているとは思いますが、その子その子の孤立感を訴えやすい場所を確保していただきたいと思っています。</p>
星野生涯学習課長	<p>「ねくすと」のお話については担当が別の部署にはなるのですが、個室や、オープンじゃない場所が必要だということを担当に伝えたいと思います。</p>
井上委員長	<p>その他ございませんか。なければ、次に進めさせていただきます。基本目標Ⅱについて、事務局からお願いします。</p>
稲垣生涯学習係長	<p>13ページをご覧ください。 「基本目標Ⅱ持続可能な生涯学習の推進」であります。1「生涯学び、活躍</p>

できる環境の整備」では、成果指標1-①「生涯学習に取り組むことで、心の豊かさを実感している市民割合（％）」は現状値と比べ横ばいとなっており、多様な学習機会や学習情報の提供が求められます。1-②「生涯学習の施設が充実していると思う市民割合」は、現状値に比べて3.9%増加しています。これは、公民館のロビーへのエアコン整備やテーブルの更新等、施設利用者からの要望を踏まえた施設改修等が行われていることによるものであると考えられます。

次に、2「市民が行う学習活動への支援」では、成果指標2-①「生涯学習の情報が充実していると思う市民割合」は、現状値と比べると6.0%増加しています。これは、従来の広報誌やホームページに加え、インスタグラムなどのSNSによる情報提供が充実してきていることが要因ではないかと考えられます。

次に、3「多様な主体との連携・協働による学習活動の推進」では、成果指標3-①「生涯学習の機会が充実していると思う市民割合」は、現状値に比べて5.3%増加しています。コロナ収束後、各団体等の活動が活発化していることや、生涯学習の情報が入手しやすくなったことが増加の要因ではないかと考えられます。

今後の推進の方向性としましては、市民の主体的な学びを支援するため、市民ニーズに応じた学習機会や学習情報の提供、社会教育施設の計画的な施設整備を進めるとともに、市民の学んだ成果が地域社会に還元されるよう、必要な情報の積極的な提供に努めます。

次に14ページをご覧ください。

「基本目標Ⅲ文化・芸術による豊かな人間性の涵養と郷土の歴史の保存と継承」であります。1「多様な文化・芸術活動の促進」では、成果指標1-①「文化・芸術活動に参加している市民割合」は、現状値に比べると横ばいとなっており、今後も参加の機会の提供や活動団体への支援が求められます。

次に、2「文化施設の機能充実」では、成果指標2-①「過去1年間に文化施設を利用した市民割合（％）」は、現状値に比べて6.3%増加しています。コロナ収束後、文化・芸術活動活動が活発化し、文化施設での鑑賞機会が増えていることや、文化施設での各種講座等の参加者数が増えていることが要因であると考えられます。

次に、3「個性豊かな地域文化の保存活用と継承」では、成果指標3-①「文化財や歴史遺産の活用により、個性豊かな文化が育っていると思う市民割合」は、現状値に比べると横ばいとなっており、文化財等をさらに活用していくことが求められます。3-②「郷土文化・歴史を学ぶ事業の開催数」は、現状値に比べて増加しています。これは、郷土文化や歴史を学習したいというニーズの高まりにより、市民向けの出前講座や小中学生への学習支援が増加したことによるものです。

今後の推進の方向性としましては、市民の文化・芸術活動への支援や鑑賞機会の充実に努めます。また、郷土の歴史を継承していくため、歴史文化資源の保存及び利活用を推進するとともに、各種講座の開催等を通じて、地域文化の保存・継承に努めます。

井上委員長	<p>以上です。</p> <p>まとめて基本目標Ⅱ、基本目標Ⅲについて説明がありましたが、委員の皆様から質問、意見等はございますか。</p>
松山委員	<p>「生涯学び、活躍できる環境の整備」の成果指標1-①について、生涯学習インストラクターの会で年間10~11回程度市民の方向けの講座を開催しているのですが、まだまだ足りないのか、インストラクター自体を掘り起こしていく必要があるのかなと思います。参加した方にアンケートをお願いしていますが、来てよかった、こういうことを知ることができて良かったというような良い感想をいただいていますので、間違いではないと思いつつも、色々な事業の選択肢を増やしていく必要があるのかなと痛感しています。数字を見て、ちょっと残念だなと感じていますが、次に期待していきたいと思います。</p>
井上委員長	<p>市民アンケートのため全市民からの抽出になり、そもそも接点がないというような方々がいいえの方に含まれているということになると思います。あと4年ありますので、ここからどう伸ばしていくかということになるかと思います。</p>
木滑委員	<p>アンケートを取ったときにいいえだけではなくて、はいに繋がるような意見を求めているのでしょうか。例えば、どんなことがあったら参加したいか、学習したいかというような意見は出てこないのでしょうか。</p>
稲垣生涯学習係長	<p>まず指標の考え方としまして、市民アンケートで、生涯学習に取り組むことで、心の豊かさを実感していますか、という問いに対して、実感していると答えた回答者が35.9%でした。そのうちで実感していると回答した割合は74.9%と比較的高い数値となっています。</p>
星野生涯学習課長	<p>まず何か生涯学習に取り組んでますか、という質問が前にあり、そこではいと答えた方に対して、取り組んで心の豊かさを実感していますかということをして2段階で聞いています。生涯学習に取り組んでいる人のうちで心の豊かさを実感している人が先ほど申し上げた74.9%。取り組んでいる人の中では74.9%なのですが、そもそも取り組んでいない人が全体にいますので、こういう数値になっているということです。いずれにしても委員長がおっしゃっていたとおり計画のとおり向上するように機会を作るとか、情報提供をするように努めていきたいと考えています。</p>
藤田委員	<p>現状値（R4年度）というのは、コロナ禍の影響を受けているのではなく、終わったということでしょうか。今はコロナ禍で行事もなく、行きたくてもできないという状況は乗り越えたということでしょうか。</p>

星野生涯学習課長	<p>コロナが初めて出たのが令和元年度で、令和4年度はまだ若干の影響はあったと思いますが、令和5年5月に5類移行になったと思います。普段事業をやる中で、令和6年度はほぼ回復してきたと思っています。一番影響を受けた令和2、3年度は色々なものが中止になったり大変だったかと思いますが、令和4年度は復活し始めた時期だと思っています。令和6年度は完全ではないですがほぼ元通りくらいと押さえています。</p>
石川委員	<p>1点目は、統計の取り方について、やっている人達の満足度が高いのであればそれを反映できるようなものにした方がより実態に合っていると思います。取り組むことで、ということになっていますので、取り組んでいない人も含めた方がいいのかはご検討いただきたいです。</p> <p>2点目は、生涯学習に取り組むことについてですが、大麻公民館を利用してサークル活動をやっていますが、活動団体が10人いないと年間の利用予約ができません。その絶対数が今減っていて、10人を維持できない団体が増えていて活動が減っていると大麻公民館では聞いています。高齢化はどここの地域でも進んでいると思いますが、活動団体をこれから作っていく、市の講座を受講した方が自主的にやっていくような形にもっていきけるような取組もお願いしたいと思います。</p>
稲垣生涯学習係長	<p>高齢者大学という65歳以上の方を対象とした大学がありますので、そういった方々が自主的に何かサークルなどを作っていきけるような支援なども考えていければと思います。</p>
井上委員長	<p>恵庭市の高齢者大学、長寿大学といいますが、こちらではコロナ禍前から、カリキュラムを勉強してよかったということだけではなく、卒業したら地域の活動に参加する足掛かりとなるようにしています。団塊の世代以降になると地域に戻るきっかけも普段の生活ではないという状況の中で、そういう機会をどういう風に掴んでいくかといったときに高齢者大学、社会教育事業の役割はとても大きいと思っています。</p> <p>団体10名以上いないとというのは地域レベルでは厳しいのではと思いましたので、そこは検討されてもいいと思います。恵庭市でも文化団体、サークルで10人をきっているところは結構ありますが、定期的に活動できていれば、例えば文化祭なども参加できるように維持していますし、部活が地域移行するときに文化の関係の子どもたちが関わっていければいいのかなというような議論をしているところです。ある程度厳しいところを下支えしていただくようなこともご検討いただければと思います。</p> <p>その他ございませんか。</p> <p>計画としてはまだ1年目ということですから、ここから色々細かい課題が出てきて計画に基づいて工夫していくという流れになるかと思っています。その方向性について、社会教育は数字に出ない部分もたくさんありますので、議論しながら、実</p>

<p>藤田副委員長</p> <p>井上委員長</p>	<p>践者あるいは行政それぞれでできることを見つけていただければと思っています。</p> <p>藤田副委員長いかがでしょうか。</p> <p>社会教育委員の会議というのは、教育委員会に対して提言・助言というような答弁の場であります。ここで質問したりお願いしたりする立場ではないということとは理解していただいて意見交流していきたいと思っています。</p> <p>先ほど美術交流の話もありましたが、美術協会のホームページを見ますと中学生、高校生も活動しています。文化団体としては100団体ありますので、その中には絵画・美術・書道、あるいは華道・お茶、色々な分野があります。今日の新聞にも、先生方の働き方改革から、大麻東中学校で社会人野球の選手が部活動の指導者となったという記事がありました。ただスポーツを強くするためではなく、子どもたちの教育、いわゆる礼儀作法や文化をしっかりと教えていくことが大事だと思います。私が担当している土曜広場も学校単位でやっていましたが、住区会館や旧町村農場で一同でやることになりました。メリットは生徒が色々な好きなものを選ぶこと、その学校によってあるものとないものがありました。ただデメリットは子どもが通ってこれないので親の力も必要になってくることです。そういうこともあり児童数は減りましたが、自分の好きな道にいけるというメリットもあります。教育委員会もそういうことを考えてやっているのかなと、良い方向に向かっていければいいのかなと思っています。</p> <p>それでは、議題（2）令和6年度江別市社会教育総合計画推進状況報告書について議論を終わりたいと思います。</p>
<p>5 その他</p>	
<p>井上委員長</p> <p>稲垣生涯学習係長</p> <p>井上委員長</p> <p>松山委員</p>	<p>次第5のその他について、議題をお持ちの方はいらっしゃいますか。</p> <p>事前にチラシを郵送していますが、江別市生涯学習推進協議会主催の「生涯学習リレー講座」が、8月29日（金）から3週にわたり、SDGsをテーマに開催されます。</p> <p>また、机上にチラシを配布しておりますが、9月28日（日）に、同じく江別市生涯学習推進協議会主催で、会員の活動成果発表や、市民のみなさまに様々な生涯学習を体験していただく場として、「ら・ら・らフェスティバル」を野幌公民館において開催いたします。ぜひ時間がありましたらご参加ください。</p> <p>次回の本会議ですが、2月を予定しています。詳細が決まり次第ご案内いたします。</p> <p>今の告知について、松山委員から何かございますか。</p> <p>リレー講座が今月末からで、SDGsを基にして考えてきた3年目で、集大成とい</p>

	<p>う気持ちがあります。普通の日常生活の中で気付かない部分や学べる部分がたくさんありますので、ぜひ皆様方だけでなくご家族やお知り合いの方にも告知していただき、ご参加いただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。ら・ら・らフェスティバルには、黒河内委員、藤田委員にもご参加いただき、生涯学習推進協議会の64団体のうち3分の1くらいの団体が参加しています。知らなかったことがわかるということ、新しい発見は喜びに繋がると思います。喜びに繋がるヒントがたくさんあると思いますので、お時間ありましたらぜひお越しいただきたいと思います。</p>
井上委員長	<p>他にございませんか。</p> <p>令和7年度第64回北海道社会教育研究大会の要項をお配りしております。今年度は檜山の今金町で行われます。交通の便などなかなか難しいところもあるかと思いますが、1泊2日の日程が1日日程ということになっております。ただ全道からの社会教育委員、関係職員の皆様と交流・学習ができる機会ということでその内容については変わらずということでもあります。地域性を少し生かして教育大函館校の先生からの講演等もあるということですので、もしよければ一定の補助も出るということですので、事務局にご連絡いただければと思います。</p>
松山委員	<p>オンラインはないのでしょうか。</p>
稲垣生涯学習係長	<p>現地でとなります。</p>
井上委員長	<p>他に皆様からなければ、令和7年度第1回江別市社会教育委員の会議を閉会いたします。お疲れ様でした。</p>